

第4回蘇州大学交流研修訪問団 報告レポート集



研修日程： 2016年9月2日（金）～9月23日（金） 22日間
研修先： 中国・蘇州大学海外教育学院

兵庫県立大学





蘇州での3週間を振り返って

経済学部2回生 女子

蘇州で過ごした3週間は、初めての連続でした。中国に行ったこと自体、今回が初めてでしたし、留学生寮は2人一部屋なので初めて友達と同じ空間で生活したり、知っている単語を使い苦労して店員と会話し買い物をしたり、今までに見たことのないような料理を食べたり、大量の電気バイクであふれる街を散策したり…本当に中身の濃い研修でした。

今回の研修で私が感じたのは、「異文化を受け入れること」の大切さと、「人との出会い」の大切さです。

まず、異文化を受け入れることの大切さについてですが、中国では本当に驚くことの連続でした。中国にきてまず驚いたのが、バイクの量とクラクションを鳴らす人の多さです。今まで当たり前だと思っていた日本の道路がなんて平和だったのだろうと思えるほど、騒がしい街並みを見て、本当に異国の地に来たのだなと実感しました。地下鉄に乗るたび手荷物検査をしたり、トイレにトイレットペーパーを流してはいけなかったり、日本ほど環境衛生が良くなかったり…と最初は戸惑いましたが、郷に入っては郷に従えということで、受け入れていくうちに慣れていきました。この3週間でずいぶんたくましくなったなと感じています。

次に、人との出会いの大切さについては、本当にたくさんの人にお世話になりました。蘇州大学で日本人留学生を担当していらっしゃる留学生科の魏さんや県立大クラスの中国語の授業を担当してくださった2人の先生方は、本当に熱心で親切な方々ばかりでした。日本語学科の生徒たちは、みんな日本語が上手で、休みの日には現地でおすすめの場所を案内してくれたり、一緒にご飯を食べたり買い物をしたり…と楽しい思い出をたくさん作ることができました。

また、蘇州大学で私たちと同じように短期留学をしていた日本人の人とも仲良くなりました。特に、私たちより約1か月早く蘇州大学に来ていた関西学院大学の人たちには、食堂の使い方を教えてくれたり、タクシーの乗り方を教えてくれたり、学外のいろんなお店を教えてくれたり…と本当にたくさんのことを学びました。

みんな今回の研修が無ければ出会えなかった人たちなので、貴重な出会いだったと思います。日本に帰ってきてからも、SNSを通じて交流が続けばよいなと思うし、また日本でも蘇州でも会いたいなと思っています。

今回の研修を通じて、私は今まで以上に海外に興味を持つようになりました。再び蘇州へ行きたいし、中国以外の国にも行ってみたいと強く思っています。それに、外国は実際に行って自分の目で見てみないと分からないことがたくさんあるということも実感しました。大学生は、人生で最も時間を自由に使える時期だと思うので、在学中に今回のような研修であれ、旅行であれ、さまざまな国を訪れたいなと感じました。3週間という短い期間ではありましたが、蘇州で過ごした日々はかけがえのない貴重な思い出です。

1. 今回の短期留学で学んだこと

わたしが上海空港に到着して最初感じたことは、日本と中国の文化の違いであった。空港では、職員の人たちが大きな声で会話をしていた。日本ではこんな大声で話す人は滅多にいない。また、空港の外に出ると、帰省ラッシュなのかと思うほどの車の多さ、早すぎる車のスピード、大きなマンションが連なっている光景、夜になってからの派手なライトアップなど数えきれないほど多くのことに驚かされた。中国に来てから最初の1週間はその文化の違いを受け入れるのに時間がかかった。それと同時にこの文化の違いを楽しんでいた。中国がアジアだということが大きな要因だろう。わたしは、以前カナダ行ったことがあり、そこでは日本とは次元が違う世界だということを感じさせられた。住んでいる人の人種も食べ物も目の前にある光景も日本とは全く共通点が無かったからだ。あまりにも違うことだらけだったので、楽しむというより別の世界に迷い込んだかのような錯覚があった。しかし、中国は日本と大きく違うわけではない。見た目はほとんど同じであり、食べ物も建物も共通点がある。共通点を探しつつ、ちょっとした違いを見つけるのが楽しくなった。その中で、最も面白いと感じたのは、中国人と日本人との性格の違いであった。日本人はとてもルールに従順である。その代り、サービス精神に欠けるところを感じた。中国では、買い物をしている時に店員さんが積極的に話しかけてくれる。しかも、ラフな感じである。しかし、日本の店員さんはマニュアルに書かれたような声かけをしており、不自然な印象を受ける。そういった点では、日本人より中国人のほうが寛容な性格であると感じられた。しかし、中国人は勤務中にスマホを触っていたり、寝ていたりする。こんなことをしていたら、日本では大問題になる。また、接客が適当なもの日本では考えられない。こういった点では、日本人のほうが真面目な性格であると感じられる。わたしは、寛容であることも真面目であることもどちらも大切なことだと思う。日本人には日本人の良いところがあり、悪いところがある。これは、中国人も同様である。これは当たり前前のことではあるが、日本のテレビからはわからない現地を生で実感し、学ぶことができた。

2. 今後について

まず、自分がやらなければならないのは、語学学習である。もっと中国について知るには、話しかけてくれる現地の人と自分のことばで交流できなければならないからだ。中国語の発音はとても難しいが、それにめげずに果敢に挑戦していきたい。また、今回の短期留学で中国のことを深く知り、中国は知れば知るほど面白い国だと感じたので、次に留学では半年や1年といった長期で行きたい。

蘇州研修について

経営学部 3 回生 男子

私は蘇州大学における研修において多くのことを学びました。まず勉学についてですが、新鮮であったなという印象が強いです。海外で受ける授業は日本のものとはずいぶん異なりました。特に長期クラスに編入されたときは色々な国の外国人と一緒に授業を受けたりなど大きく環境がかわりました。筆記はまずまず出来るようになったのではと思いますがリスニングとスピーキングはまだ努力が必要だなと考えているうちに帰国の日を迎えてしまいました。先生方もみな優しい人ばかりで生徒の面倒をよく見てくれました。

一番印象に残ったのは料理の美味しさです。引率の陳先生に連れていただいたお店はどれも美味しいものでした。日本では見たことのないような鳩などの料理も初めてでしたがよい味で、ビールも日本に比べて味がすっきりしていて飲みやすく印象に残りました。

観光は蘇州博物館と上海のこと、そして生糸工場の見学に行ったことをよく覚えています。蘇州博物館は蘇州を代表する博物館だけあって立派で各時代の遺物が置いてありました。生糸工場は蘇州の二つの工場を見学しに行きました。売り場に置いてある生糸製品はきれいなものが多かったですが、どれも高いもので学生が手を出せるようなものは小物くらいしかおいてなかったです。上海は滞在できた期間は一日弱と非常に短い期間であったのですが、大都会という感じで圧倒されました。夜景が日本では見るできないようなおしゃれなものでした。

これらの経験を生かして私は中国語の実力を向上させることが出来たのではないかと考えていますが私は日本に帰国してからも独学でも中国語の能力をより向上させていきたいと思いました。先生方にも勉強法や発音のコツなどを改めてわかりやすく教えて頂いたのでより励んでいこうかと考えております。そして先生方の教えを生かし中国語を淀みなく話せるようにして機会があればまた蘇州を訪問出来れば良いなと考えております。

蘇州大学短期研修レポート

環境人間学部 2 回生 男子

私は海外経験が少なく、特にアジア圏の外国には行ったことがありませんでした。その分、中国へ出発する前は不安が大きかったのですが、実際に行ってみると、その印象は大きく変わりました。

まず思ったことは、中国の方はとても優しい、ということでした。蘇州大学の魏さんや中国語の先生、学生さんが親身になってくださったおかげで、留学中は何一つ不自由することなく、中国語と文化を学ぶことができました。中国語の授業はとても面白く、毎朝校舎へ行くのが楽しみでした。文化体験では書道と切り絵、餃子作りを行ったのですが、どれも一度は経験したことがあるのに、日本とはどこかが違う、といった体験をすることができ、興味深かったです。

蘇州大学はとても広く、校舎までは歩いて十五分はかかりましたが、校内の建物やそこにいる人達を見ていると新鮮でした。特に、中国のスポーツ事情を見られたのが良かったです。私は中国ではてっきり卓球が流行っているものだと思っていましたが、校内にはバスケットコートやフットサルコート、バレーコートがいくつもあり、多くの人を見かけました。中でもバスケットボールが一番流行っていたのには驚きでした。

町へ出かけると、お店の店員さんやウェイターの方の対応がとても丁寧で、安心して買い物や食事を楽しむことができました。

ただ、中国の交通事情には驚きました。日本と車線が反対なのは知っていましたが、車やバイクの動きは予想外でした。一週間もすれば慣れてしまい、どのタイミングで道路を渡るか、と考えるのが面白くなっていました。

企業見学では日本と中国、二つの企業を見ることで、その違いを目の当たりにしました。日本の企業は、日本の技術を海外で生かし、その土地の市場に乗り込む姿勢や工夫の一部を見ることができました。一方、中国の会社では、日本の技術をいかに取り込んでいるかを知ることができ、これが急成長している中国の片鱗を見られた気がします。

この三週間で得られた経験は、今後の生活に大きく関わってくることと思います。今回の研修に参加することができ、本当に良かったです。

第4回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部2回生 男子

蘇州大学に3週間の研修に行き、中国で多くの事を学び、様々な事に驚いた。

最初の5日間は環境習熟ということで先生同行の下、昔の政治家が作った世界遺産の庭園を見たり、地下鉄に乗り名所を観光した。どの遺産にも中国の長い歴史が感じられ、写真やテレビで見てきたものが目の前にあると思うと感動した。料理は口に合わないかもしれないとの不安があったが、出てきた四川料理、蘇州料理、広東料理、どれも美味しかった。餃子や小籠包などの日本でおなじみの料理はもちろん、鳩の肉などの馴染みのない食べ物もあったが本当に美味しかった。

中国に来て、一番に驚いたのは交通状況である。ある程度日本より悪いのは予想していたが、想像を超えたマナーの悪さだった。クラクションは鳴りやまず、平気で信号無視をしていた。横断歩道は人が車をよけて通るという感じで、車に轢かれたりしないかと、怖い思いを何度もした。夜になると横断歩道の上で屋台を営んでいたりして、中国の空気を感じた。

また、強く感じたことも多くあった。まず、中国語の難しさである。大学で1年半程中国語の授業を受けていたが、全く伝わらず今まで勉強してきたことが全然身になっていないことに気付いた。飲食店に行き、メニューひとつ注文するのに緊張し、料理名もどのように読んだらいいのか分からなかった。

中国語の読み方には声調というのがあり、それを正確に発音しないと違う意味になったり、間違っって伝わってしまう事が多かった。今まで声調に気を付けたことがほとんどなく、大学に来て先生に言われたことで初めて重要性に気付いた。

国際クラスに入り、中国語を学習した経験のない人の多さに驚いた。独学で学んだ、またこれから学ぼうとしている人が多かった。漢字の読み方、書き方から始まったが、皆黙々と勉強し、積極的に、授業に参加していた。このやる気を見習おうと感じた。

この研修で中国に訪れたことで、自分の中で漠然と持っていた中国のイメージが変わった。研修に来る前までは、空気が汚く臭い、道路にはゴミばかり、反日で何かしらの問題が起こるかかもしれないと感じていた。でも実際は全くそんなことは無く、むしろ日本よりも綺麗ではないのかと思われる所もあった。日本人だからということで敬遠されることもなく、先生、学生さん、入ったお店の店員、皆優しく対応してくださった。

この研修を終えて、まず中国語を勉強しようと感じた。今まで勉強してきたはずだったが、全く身になっていなかった。後期に中国語の授業があるので今まで以上に集中して、取り組みたいと思う。また、中国語の検定を受けてみたいと思った。大学の授業だけでは不十分だと思うので、海外留学生の様に自分でも工夫して学習していきたい。

自分は国際教養コースに入っているのですが、中国語の実力を十分につけて、また中国に留学したい。

第4回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部3回生 女子

『我在苏州的生活』

中国人は素直に生きている。心の底から笑ったり、怒ったりする。私はそれが羨ましい。蘇州大学のキャンパス内を歩いていて目に留まるのがカップルの親密さである。兵庫県立大学では見るのできない光景だった。日本人は非常にシャイであるため、自分の感情を表現することができない。日本人より中国人の方が人生の楽しみ方を知っているのではないだろうか。

蘇州では素敵な出会いがたくさんあった。日本語学科の学生と交流する機会があり、そこでたくさんの友人ができた。教科書や辞書には記載されていない若者ことばや、くずした表現の生きた中国語を学んだ。一緒に食事をしたり、買い物をしたりと毎日が充実していた。日本人の友人も作ることができた。1年間留学している学生からは多くの刺激を受け、楽しみながら語学を学んでいる姿に感銘を受けた。国際クラスでは、話すことの重要さを学び、自分の語学の稚拙さにうんざりした。「週末どこに行きましたか？」と聞き合うペアワークがあり、私は「平江路に行きました。」とだけスペイン人の彼女に伝え、「然后？（それから？）」という言葉が返ってきた。日本人ばかりの県大クラスではありえないことだったので動揺した。私たちは教科書通りにこなすことが良いと考えるが、それでは語学の上達は期待できない。自分で実際に考えることが最も重要であるということを彼女から学んだ。

私は日本から山のようにマスクを持って行った。中国＝大気汚染のイメージがあったからである。しかし、蘇州でマスクをつけた日は1日もなかった。冬場は、空気が汚くなることがあるそうだが、夏場はそうでもない。メディアから得られる中国に関する情報のほとんどはマイナスのイメージを含む。その情報がすべて正しいと信じる人は中国のことを嫌う。周囲の人に中国に留学に行くことを伝えるとその中のほとんどの人はどうしてそんな国に行くのかと疑問をもっていた。それは仕方がないことだと思う。日本国内ではマイナスのイメージしか飛び交っていないからである。実際に目で見なければ理解できないことがたくさんある。今回の研修目的として、中国を目で見ることを挙げていた。その目的は果たすことができたのではないだろうか。

我喜欢中国！喜欢苏州！

第4回蘇州大学交流研修訪問団に参加して

環境人間学部3回生 女子

中国は私たちにとって身近な国です。県立大学には中国からの留学生が多く、また国としても日本と深くかかわりがあります。そういったこともあり、また3回生である今がラストチャンスであると考えこの研修に参加することを決めました。

私はあまり海外経験がなく、中国に関しても初めて行ったほどです。中国語もほとんどできない状態だったので、約3週間も滞在することに最初は不安を感じていました。しかし親切にしてくださる先生や新しい中国人の友達に会い、とても充実した日々を送ることができました。平日のおおよそのスケジュールは、午前中が授業で午後には数回文化体験や交流会などのイベントが組み込まれていました。その日中交流会で知り合った中国人の友達と休みの日に平江路に出かけたことはとてもいい思い出となっています。平江路とは大学の北門を出てすぐのところに歴史的な街並みが見どころの場所です。自分たちだけでは行けそうにない料理屋などにも連れていってもらい、おいしい蘇州料理を堪能しました。

私は中国茶に興味を持っており、この機会に本場の中国茶に触れたいと思っていました。日本で飲食店に入るとほとんどの場合に水が出てきますが、中国ではお茶や水、または何も出てこないところなど様々でした。さらに出されるお茶にも種類があって、分かったものだけでも、緑茶、ジャスミン茶、そして菊花茶がありました。私は今まで緑茶以外の中国茶はジャスミン茶しか飲んだことがなく、今回初めて菊花茶を飲んだのですが、とても美味しかったです。中国茶は体にも良いとされているので、日本でも積極的に飲んでいきたいと思いました。

また、この3週間で日本と中国の文化や社会の違いを学ぶことができました。例えば、日本では人々は控えめになることが多いですが、中国では各々が自己主張をしているということなどが挙げられます。私がそれをよく感じたのは道路でのクラクションでした。日本でのクラクションの意味は危険回避や、相手のドライバーへのお礼として使われています。しかし中国では周囲に自分の存在を示すためにクラクションを鳴らしています。交通量が多いのも原因のひとつだと思いますが、最初のころはクラクションの音にとっても驚いていました。しかし日が経つにつれて自分のなかでそれが日常となっていくのを感じました。

今回の研修は3週間という短い期間でしたが、様々な人々と出会い、多くの経験をしました。中国は私たちにとって身近な国ですが、やはり自分の目で見て感じる事が大切だと改めて感じました。この経験を残りの学校生活や就職活動などに少しでも役立てたいと思います。